

Be Fine!

株主の皆様とシスメックスをつなぐコミュニケーション誌

特別企画・社長に聞く

シスメックスQ&A …… 3ページ

シスメックス 挑戦の軌跡 ①

医療分野への挑戦 …… 7ページ



開港 150 年を迎えた神戸港

国内・海外ともに 事業が堅調に推移し、 増収・増益を達成 しました。



代表取締役会長兼社長 CEO

家次恒

いえつく ひさし

【出身地】大阪【略歴】大学を卒業後、銀行に13年間勤務。その後、東亜医用電子株式会社(現シスメックス株式会社)に入社。1996年に代表取締役社長、2013年に現職に就任。【趣味】読書、スポーツ観戦【信条】「意あらば通ず」

- ポイント1 現地通貨ベース・円ベースともに売上高・営業利益が増加
- ポイント2 当期利益*は、前期の日独租税協定改正の一時的な影響などにより減益

シスメックスは2018年2月20日に創立50周年を迎えました。これまでご支援いただいた株主の皆様へ、心より御礼申し上げます。

当社グループの2018年3月期 通期の業績は、現地通貨ベース・円ベースともに全ての所在地で増収となり、増収による粗利益の増加や円安の影響などにより増益となりました。一方で、当期利益*は前期の日独租税協定改正の一時的な影響などにより、減益となりました。売上高は前年同期比12.8%増、営業利益は同14.3%増、当期利益は同3.5%減となりました。なお、前年同期の為替レートを適用した場合、売上高は前年同期比8.7%増、営業利益は同9.5%増となります。

国内は、ヘマトロジー分野*の伸長に加え、血液凝固検査分野や免疫検査分野で試薬の売上が伸長し、増収となりました。海外は、ヘマトロジー分野を中心に、機器の設置台数の増加に伴い試薬の売上が伸長し、全所在地で増収となりました。

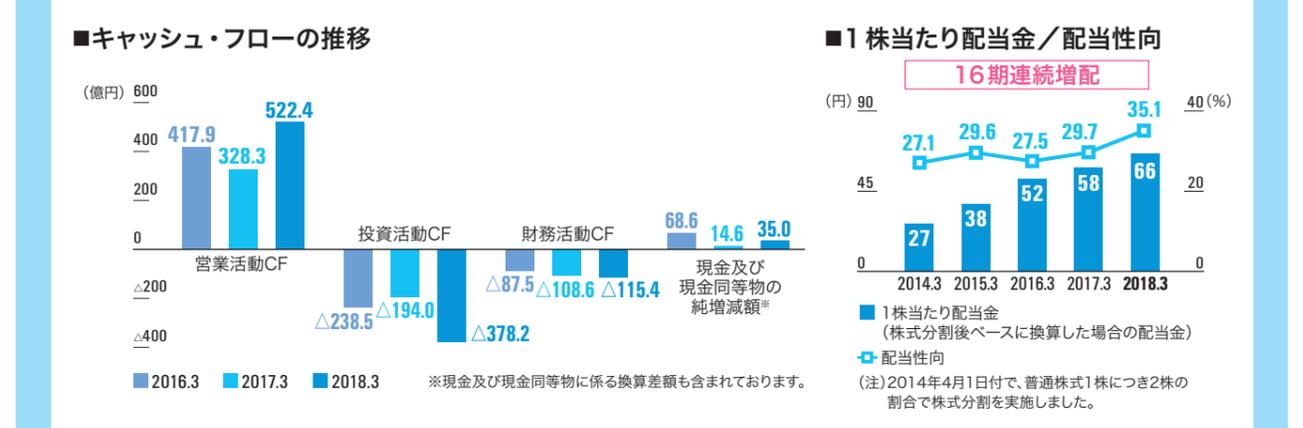
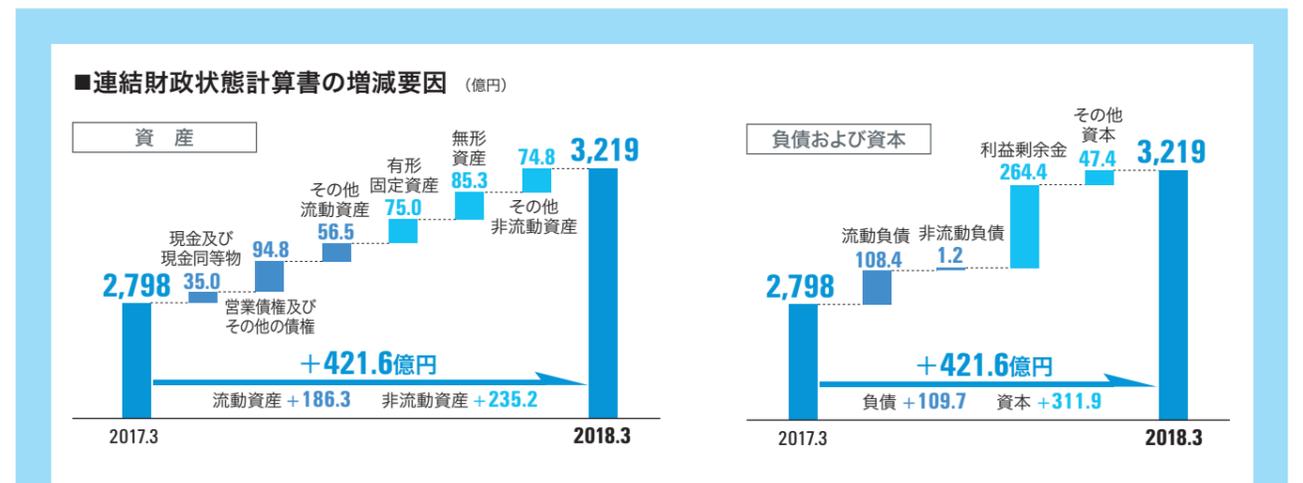
これらの結果、当社グループの海外売上高比率は84.0%となりました。

配当につきましては、年初予想の1株60円(中間30円、期末30円)に対し、株主の皆様への感謝の意を込めた創立50周年記念配当6円を加えた、年間66円(中間30円、期末36円)といたしました。これにより16期連続の増配となり、連結配当性向は35.1%となります。今後も継続的な安定配当を目指してまいります。

2019年3月期の通期連結業績見通しにつきましては、売上高3,100億円、営業利益620億円、当期利益425億円を計画しています*。また、配当につきましては、年間1株につき68円を予定しております。

株主の皆様には、今後ともより一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

* 想定為替レート：1USD=110.0円、1ユーロ=130.0円、1中国元=16.5円で算出



利益配分(配当)に関する考え方について
 当社は、安定的な高成長を持続させるための積極的な投資と、収益性の向上に伴う株主の皆様に対する利益還元との適正なバランスを確保することを目指しております。株主還元については、継続的な安定配当に留意するとともに、業績に裏付けられた成果の配分を行うという基本方針のもと、連結での配当性向30%を目処に配当を行ってまいります。

次のステージに向けた新たな挑戦のスタート 「長期経営目標」に込めた思い

シスメックスはこのたび、
2025年を最終年度とする「長期経営目標」を策定しました。
新たな「長期経営目標」に込めた思いについて、
社長の家次がご説明します。



Q

「長期経営目標」を策定した背景は？

A

グループの持続的な成長と、それを支える経営基盤の強化を推進することが目的です。

これまでシスメックスは、グローバルに販売・サービスネットワークを構築するとともに、検体検査*領域を中心とした製品ラインアップの充実に加え、IoT*を活用した先進的なサービス&サポートをいち早く提供するなど、独自のソリューションを創出し続けることで継続的な成長を実現してきました。そして創立50周年という節目となる2018年、次のステージに向けた新たな挑戦をスタートするため、「長期経営目標」を策定しました。

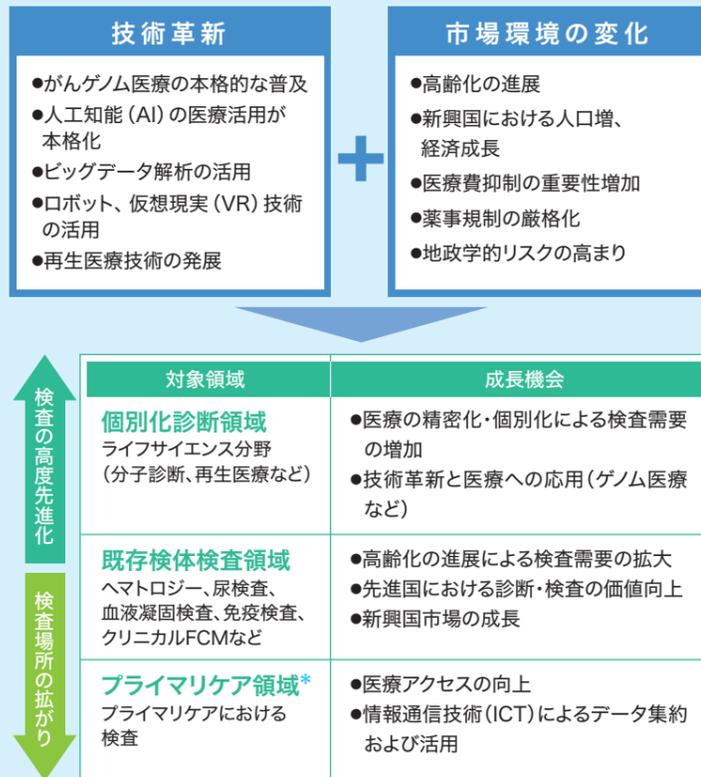
Q

今後のヘルスケア市場の動向は？

A

継続した市場の成長と、技術革新を背景としたさらなる成長の機会が期待されます。

医療費の高騰を背景とした先進国における医療の効率化や、経済発展を背景とした新興国における医療ニーズの高まりから、世界のヘルスケア市場は今後も継続した成長が期待されます。また、最先端技術のヘルスケア領域への応用や、分子診断技術*の進歩による個別化医療、再生医療の進展など、さらなる成長機会も見込まれます。このような技術革新に伴う市場のさらなる発展を見据え、当社はこれまで検体検査領域で培った技術・事業ノウハウを活かして、最新のテクノロジーを用いた新たな検査・診断技術の創出に挑戦し続けることで、持続的な成長を実現していきます。



Q

「長期経営目標」の具体的な内容は？

A

**長期ビジョン
「特徴のある先進的なヘルスケアテストング企業」と
これに基づくポジショニングを設定しました。**

2025年を最終年度とする「長期経営目標」では、コア事業（ヘマトロジー分野*、尿検査分野、血液凝固検査分野、免疫検査分野）の持続的な成長により、IVD（検体検査領域）においてグローバルTop5入りを目指すとともに、プライマリケア領域における新たなサービスの創出を目指します。また、個別化医療に資する新たな診断技術の創出し、ライフサイエンス分野を中心とした事業の収益化による事業構造の変革を進めます。さらに、事業活動の拡大を支え、目標の実現に不可欠な人材を獲得・育成するとともに、多様なステークホルダーの皆様から支持され続ける会社を目指し、環境配慮や事業活動を通じた社会貢献、ガバナンスやリスクマネジメントなどの経営基盤の強化にも取り組んでいきます。長期経営目標のもと、今後もヘルスケアの進化・発展へ貢献し続ける企業を目指します。

【シスメックスグループ長期経営目標 (2025年)】

■長期ビジョン

**「特徴のある先進的なヘルスケアテストング企業」
(Unique & Advanced Healthcare Testing Company)**

■ポジショニング

- | | |
|---|---|
| 1. 新たな診断価値を創出する
IVDグローバルTop5 | <ul style="list-style-type: none"> ●コア事業の持続的な成長により、IVDグローバルTop5入りを目指す ●グローバルに成長し続ける検体検査市場のシェア拡大に加え、新たな診断価値を創出 |
| 2. 治療を最適化する個別化診断のリーディングカンパニー | <ul style="list-style-type: none"> ●治療方法選択に貢献する新たな検査・診断価値を創出 ●自社測定プラットフォームとオープンイノベーションなどにより獲得した新たな技術、知見を融合 |
| 3. プライマリケアの進展に貢献するソリューションプロバイダー | <ul style="list-style-type: none"> ●検体検査領域で培った診断技術とITを活用 ●医療アクセスの向上へ貢献するソリューションの提供 |
| 4. 価値と安心を提供する魅力あふれる会社 | <ul style="list-style-type: none"> ●独創的な技術やビジネスモデル、活力ある人材、健全かつ先進的な企業経営により、多様なステークホルダーからの支持を獲得 |
| 5. スピード豊かな経営を実践するOne Sysmex | <ul style="list-style-type: none"> ●多様な人材が活躍できる魅力ある職場を実現 ●最高のチームワークを発揮し、高効率かつスピード豊かな経営を実践 |

3 ***検体検査**: 身体の状態を診断するために、血液や尿などの検体を用いて行われる検査。
***IoT (Internet of Things)**: コンピュータなどの情報・通信機器だけでなく、さまざまなモノをインターネットに接続し、情報のやり取りや遠隔操作などを行うこと。

***分子診断技術**: 組織・体液に含まれるタンパク、DNA、RNAなどの分子を調べることで病気を特定する技術。

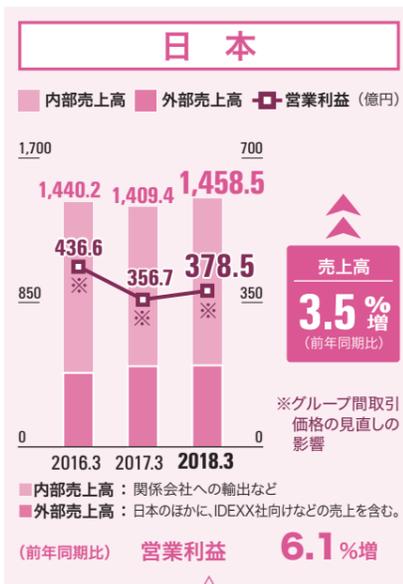
***プライマリケア領域**: 患者さんの身近な場所で行われる初期診療。

***ヘマトロジー分野**: 血液中の赤血球や白血球などの数や種類、大きさを分析することにより、精密な検査が必要かどうかを判断するための検体検査分野。

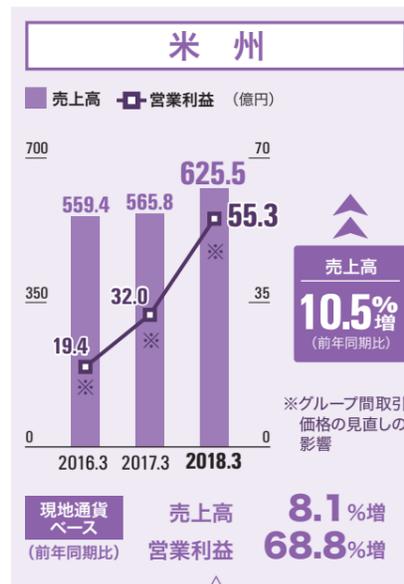
所在地別セグメント

(為替レート) (円)

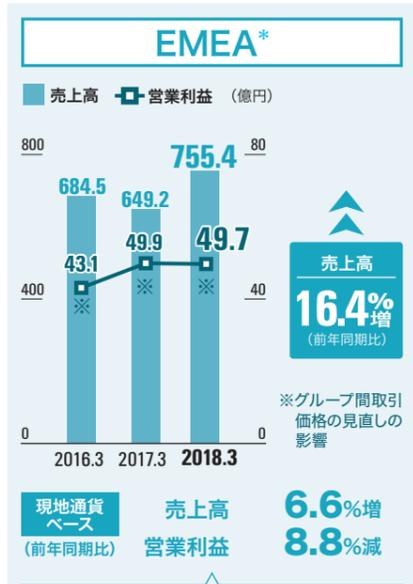
	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期
1USDドル	120.1	108.4	110.9
1ユーロ	132.6	118.8	129.7
1中国元	18.9	16.1	16.8



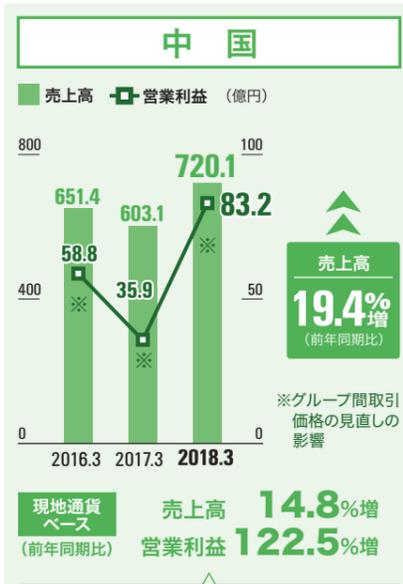
- 国内での機器案件の獲得や試薬の売上伸長により、増収
- グループ間取引価格の見直しの影響があるも、海外関係会社への売上の増加や販売管理費などの抑制により増益



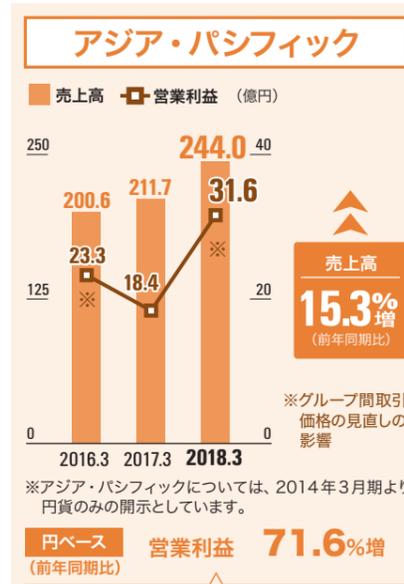
- 米国でヘマトロジー分野*の試薬やサービスの売上が伸長したことなどにより、増収
- 増収に伴う粗利益の増加に加え、グループ間取引価格の見直しにより、大幅な増益



- ヘマトロジー分野の試薬の売上伸長や、OGT社の連結子会社化による売上増加などもあり、増収
- 増収により粗利益が増加するも、子会社(シスメックス パルテック)の減損損失が影響し、減益



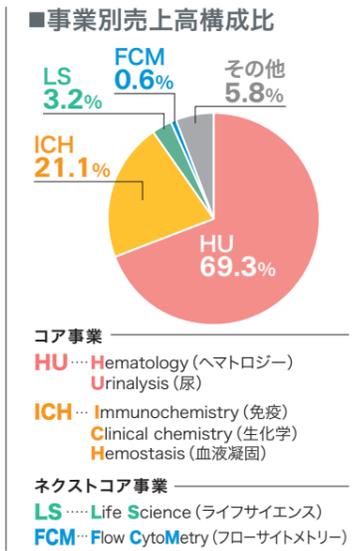
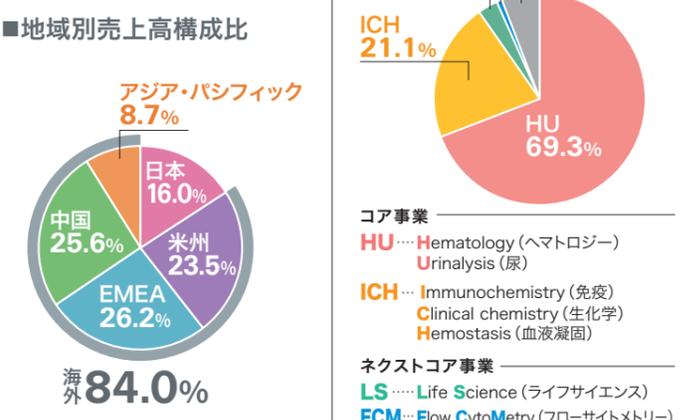
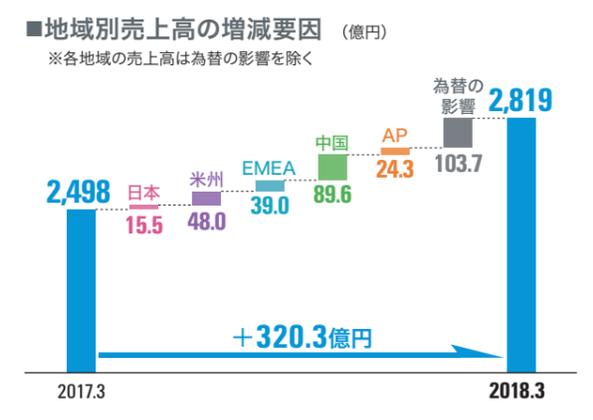
- 免疫検査分野・血液凝固検査分野の試薬の売上伸長に加え、代理店向け試薬の値上げもあり、増収
- グループ間取引価格の見直しや、試薬の売上構成比の上昇により、大幅な増益



- 大型案件の獲得による南アジアでの売上の伸長に加え、台湾の直販化も寄与し、増収
- 販売管理費が増加するも、試薬の売上伸長に伴う粗利益の増加や為替の影響などにより、増益

(注) 日本からモンゴルなどへの直接販売は、日本の外部売上高に含む。

地域別・事業別セグメント



新コーポレートメッセージを制定

創立50周年を機に、次のステージに向けた新たなコーポレートメッセージとして、「Lighting the way with diagnostics」を制定しました。新コーポレートメッセージには、革新的なヘルスケアテストングを創出し、「診断」の価値を高め、医療により確かな安心をお届けするという意志を込めており、今後、グローバルに展開していきます。

検査・診断技術を革新し、未来の医療を切りひらくために、シスメックスはこのコーポレートメッセージとともに、これからも挑戦を続けていきます。

新コーポレートメッセージ
Lighting the way with diagnostics

「diagnostics (ダイアグノスティクス：診断)」とは…
 医療は今、大きく変わろうとしています。その医療において、より確かな指針となるのが検査であり、診断です。遺伝子・細胞・タンパクなどの検査・診断技術の進展は、個人の身体の状態をより詳細に把握することを可能にし、患者さん一人ひとりに最適な医療を実現します。シスメックスは、未来の医療を切りひらく、検査・診断技術の革新にチャレンジしています。

ブランドサイトも、ぜひご覧ください >>
www.sysmex.co.jp/corporate/philosophy_brand/brand/concept.html



医療分野への挑戦

2018年、おかげさまでシスメックスは創立50周年を迎えることができました。これまで時代を先取りし、その時代に応じた独自の検査・診断価値の提供に挑戦することで成長を遂げてきた当社の歴史を4回シリーズでご紹介します。



海外視察へと旅立つ創業者・中谷太郎(右)。

「医療」という未知の領域への挑戦の始まり

「アメリカへ行けば、10年後の日本の姿が見られる」。当時、拡声器メーカーの東亜特殊電機株式会社(現 TOA 株式会社)の副社長であった中谷太郎は、企業の発展には経営の多角化が不可欠であると考え、「第二の柱」を求めて渡米します。そこで注目したのが、当時米国で急成長を遂げていた医用電子機器の分野でした。日本でも「人間ドック」という言葉を新聞などで見かけるようになっていた頃、「健康な人でも検査を受け、身体を大切に作る時代が必ず来る」。そう確信した中谷は、「血球計数装置」の開発に挑戦することを決意します。当時の検査室では、赤血球や白血球などの数、種類、大きさの測定は、検査

技師が顕微鏡で目視することで行われており、膨大な手間と時間がかかっていました。「この作業を自動化すれば、検査技師の負担が大幅に減り、しかも正確に測定することができる」。今後、血球計数装置への需要は大いに拡大すると中谷は判断したのです。とはいえ、拡声器メーカーの東亜特殊電機に血球計数装置に関するノウハウはありません。さらに、当時の血球計数装置は、米国のある企業が世界的な特許を保有しており、市場をほぼ独占していました。その企業の特許をいかに回避し、実用化に結びつけるか。1961年、3名の若き研究者が、この極めて困難な開発に挑むことになりました。

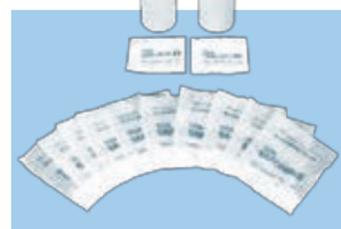


1963

自動血球計数装置「CC-1001」。当社初の製品であると同時に、初の国産製品でもありました。

1967

自社試薬の提供を開始。お客様に正しい計数結果をお届けするため、機器メーカーでありながら試薬の開発に踏み切りました。



1968

血球計数装置の販売会社として、東亜医用電子株式会社を設立。従業員8人、資本金200万円からのスタートでした。

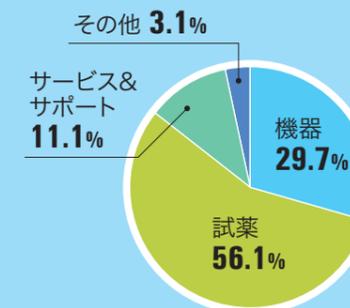


現在のシスメックス

ヘマトロジー分野*でグローバルシェアNo.1

「CC-1001」の提供から始まった、ヘマトロジー分野におけるシスメックスの事業活動。現在、シスメックスは、このヘマトロジー分野において、グローバルシェアNo.1を獲得しています。お客様から支持される理由のひとつが、機器だけでなく、試薬やソフトウェア、さらにはサービス&サポートまでをお届けしていること。そして、お客様のニーズにお応えし続けること。これらを通じて安心をお届けすることで、グローバルにシェアを拡大し続けているのです。

品目別売上高構成比 (2018.3)



単に製品を売るのではなく、計数結果をお売りする

今までとはまったく異なった分野での、ゼロからの挑戦。開発者たちは、さまざまな方に指導をおおぎながら、幾度となく失敗を繰り返す、それでも粘り強く試行錯誤を続けました。その努力は実を結び、5カ月あまりの短期間で、独自の原理を生み出すことに成功します。その後、さらに試行錯誤を重ね、1963年12月、開発着手から約2年半後に自動血球計数装置「CC-1001」は完成しました。こうして製品を世に出し、順調に売上を伸ばしていくなか、「白血球の測定結果の精度が低い」という問題が浮上しました。調査の結果、原因は「試薬」にありました。白血球を測定する際には、まず赤血球を試薬で溶かしてから測定する

方法がとられます。そのため、赤血球が完全に溶けずに残った場合には正しい測定結果が得られないことがわかりました。しかし、当時は自社で試薬を製造・販売しておらず、精度の改善には限界がありました。こうした問題を解決するため、当社は試薬の開発、販売に踏み切りました。当時の機器メーカーにとっては大きな挑戦でしたが、1967年、開発開始から約2年で自社試薬の販売を実現しました。「単に製品を売るのではなく、計数結果をお売りする」。現在も変わることのない、お客様へ「価値を提供する」というシスメックスのフィロソフィーは、この時、誕生しました。そして1968年、東亜特殊電機が製造する医用電子機器の販売会社として、東亜医用電子株式会社(現シスメックス株式会社)は創立しました。

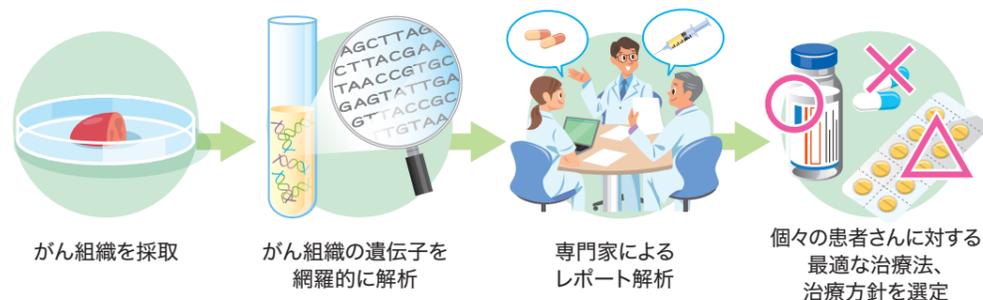
*ヘマトロジー分野: 血液中の赤血球や白血球などの数や種類、大きさを分析することにより、精密な検査が必要かどうかを判断するための検体検査分野。

「個別化医療に向けたマルチプレックス遺伝子パネル検査」が先進医療*として承認

がんの治療では、診断や薬の効果予測、再発モニタリングなどに、遺伝子やタンパク質を用いた検査が多く活用されています。なかでも、がん組織の多数の遺伝子を一度に測定・分析することで、がんの診断や治療、抗がん剤の選定に役立つ情報を抽出する「がんクリニカルシーケンス検査*」が注目されています。

新たながん診断法の開発を促進するため、国立がん研究センターとともに、2015年に国際品質基準に準拠したラボを同センターの中央病院内に開設し、患者さんのがん組織の遺伝子を網羅的に解析して、治療方針の決定や

投薬の判断などへ活用するがん関連遺伝子パネル*システムの共同開発を進めてきました。2018年4月、このシステムを用いて行う「個別化医療に向けたマルチプレックス遺伝子パネル検査」が先進医療として承認され、同中央病院にて本検査を開始しました。患者さんの受診機会を拡大するため、本検査は先進医療協力施設でも実施される予定で、採取された全ての検体は、当社の子会社である株式会社理研ジェネシスで測定します。本検査の臨床での早期活用を実現し、個別化医療の発展に貢献していきます。



***先進医療:** 医療保険診療の対象に至らない医療技術のうち、厚生労働大臣の承認を受け、保険診療との併用が認められたもの。

***クリニカルシーケンス検査:** 病気の診断や治療法の選択などのために、次世代シーケンサーという装置を用いて患者さんの遺伝子情報を高精度に調べること。

***がん関連遺伝子パネル:** がんの診療上重要な複数の遺伝子の変異、増幅や融合を同時に解析できる診断薬のこと。

新たなネットワークソリューション「Caresphere™」の提供を開始

近年、病院をはじめとする医療機関では、世界的な情報化の進展などを背景に、ITを活用した経営の効率化や品質強化への対応を進めています。当社は1999年より、お客様の分析装置の安定稼働を支援するネットワークサービス「SNCS™」を提供してきましたが、このたび、IoT*やクラウドを活用した新たなネットワークソリューション「Caresphere™(ケアスフィア)」の提供を開始しました。今後も、お客様のニーズを捉え、臨床検査および医療全体の生産性や品質向上に貢献するソリューションの提供を目指します。



***IoT(Internet of Things):** コンピュータなどの情報・通信機器だけでなく、さまざまなモノをインターネットに接続し、情報のやり取りや遠隔操作などを行うこと。

「株主様会社見学会」を開催

3月16日(金)、8回目となる「株主様会社見学会」を開催しました。当日は多数の株主様に、兵庫県加古川市にある機器生産拠点「アイスクエア」をご見学いただきました。見学会の後には株主様とシスメックス社員との懇親会を行い、和やかな雰囲気の中、普段感じられている当社への疑問やご意見などをお話いただきました。参加された株主様からは、「高品質な製品を生産し、社会に安心・安全なものを提供していることがよくわかった」「働く人に配慮した職場環境や働きやすさを改善する取り組みが素晴らしいと感じた」などのご感想をいただきました。



「アイスクエア」ご見学の様子

※応募者多数のため、抽選とさせていただきます。

会社概要

(2018年3月31日現在)

- 商号 シスメックス株式会社
SYSMEX CORPORATION
- 設立年月日 1968年2月20日
- 資本金 122億7,608万円
- 格付け A+ (R&I: 格付投資情報センター)
- 従業員数 8,445名(連結) 2,537名(単独)
*嘱託・パートタイマーなどを含む
- 主な事業内容 臨床検査機器、検査用試薬ならびに関連ソフトウェアなどの開発・製造・販売・輸出入

■役員 (2018年6月22日現在)

代表取締役会長兼社長 CEO	いづ つか 恒
取締役 専務執行役員 CFO	なか じま 幸 男
取締役 専務執行役員 LSビジネスユニット COO 兼 CTO	あさ の かおる 浅野 薫
取締役 専務執行役員 IVDビジネスユニット COO	たち ばな けん じ 立花 健 治
取締役 常務執行役員	お べ かず や 尾辺 和 也 わた へ みつる 渡辺 充 やま じゅん 三 山本 純
社外取締役	にし すすむ 西浦 進 たか まさ 代 高橋 政
取締役(監査等委員)	かま ぶし とし 釜尾 幸 俊
社外取締役(監査等委員)	おお だい ち 大西 功 和 かじ ひと 梶浦 和人
上席執行役員	まつ い ね 松井 石 根 かん ひろし 神田 博
執行役員	ジョン カーショウ John Kershaw はま けい ち 濱口 行 雄 ふじ けい じ 藤本 敬 二 おお たい へい 大谷 育 男 ユルゲン シュルツェ Juergen Schulze く まる 守 久保 由 守 ほつ さく 彭 作 輝 よし とも 一 吉 田 智 一 い い けん 介 飯 塚 健

株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
 - 定時株主総会 6月
 - 基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日
- その他必要がある場合は、あらかじめ公告いたします。

- 公告方法 当会社の公告方法は、電子公告とします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。電子公告掲載ホームページアドレス www.sysmex.co.jp/ir/

お知らせ

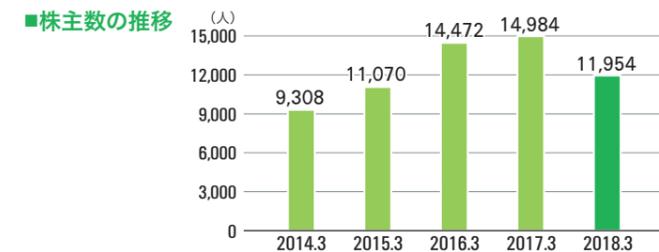
1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。 2. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてお取り扱いいたします。 3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式の状況

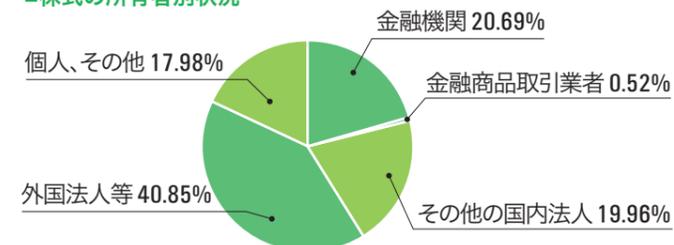
(2018年3月31日現在)

- 会社の発行可能株式総数 598,688,000株
- 発行済株式総数 208,964,432株
- 株価・出来高の推移 (2018年5月31日現在)

※ 2014年4月1日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しました。



株式の所有者別状況



- 上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部
- 証券コード 6869
- 単元株式数 100株
- 株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関 〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同連絡先(郵便物送付先・電話照会先) 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 0120-094-777 (通話料無料)

「神戸マラソン2018」を 応援しています。



2018年11月18日(日)に開催される「第8回神戸マラソン」に特別協賛します。

大会テーマである「感謝と友情」には、阪神淡路大震災の復興に手を差し伸べていただいた皆様への感謝の気持ちが込められています。シスメックスはこの大会テーマに賛同し、第1回から特別協賛を続けています。

大会では約2万人のランナーにゼッケンを提供するほか、同時開催の「神戸マラソンEXPO」への出展や、当社従業員によるボランティア支援などを予定しています。地元神戸の企業として、また、人々の健康を支える企業として、大会を全面的にサポートすることで、神戸から世界中にエールを送り、健康で豊かな社会の実現に貢献したいと考えています。

**参加料の一部がチャリティとして、
神戸マラソンフレンドシップバンクに寄付されます。**

名 称：第8回神戸マラソン

大会テーマ：「感謝と友情」

開 催 日：2018年11月18日(日)

大会規模：約20,000人

開 催 種 目：フルマラソン

※第8回より国際陸上競技連盟の主要ロードレース格付けにおいてブロンズラベルを取得

主 催：兵庫県／神戸市／兵庫県教育委員会／

神戸市教育委員会／一般財団法人兵庫陸上競技協会

「シスメックス神戸マラソンスペシャルサイト」

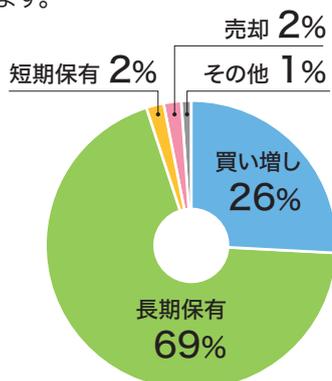
神戸マラソンについての詳細はもちろん、ランナーの皆様にとって必見のお役立ち情報や最新のトピックスをお届けしています。

<http://kobe-marathon.sysmex.co.jp/>

株主様アンケートのご報告

2018年2月発行の株主通信にて実施したアンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。ご要望や激励のお言葉などを多数いただき、IRスタッフ一同にとって大きな励みとなりました。皆様から頂戴したさまざまなご意見を、今後の事業活動や株主通信の作成に活かしてまいります。

■当社株式についての今後の方針



自由ご記入欄

【株主通信について】

- 「細胞の検査」って何?」を親子で楽しく読ませていただきました。…(40代、女性)
- 中長期計画を提示していただきたい。…(60代、男性)

今後も、より充実した情報をお届けできるよう努めてまいります。

【事業活動について】

- 今後も積極的な経営方針で進んでいただきたい。…(70代、男性)
- 貴社の発展を楽しみにしています。これからも医学の進歩に貢献し続けてください。…(70代、女性)

皆様からいただいたご意見を、今後の事業活動に活かしてまいります。